

野外活動リスクマネジメント研修会

薮 正雄（松戸市）

日 時： 2009年3月19日（木）9～15時30分時

場 所： 小金消防署～関さんの森～幸谷公民館

参加者： 指導員8名 一般13名

研修会： 普通救命講習（小金消防署）、自然観察の危険予知（講師：薮 正雄）

3月19日に上記研修を他地域に先駆け東葛地域で開催した。当地域では昨年12月に薮を講師として自主研修を実施しており、当初から指導員の参加は少ないだろうと予想された。ただし今回の研修カリキュラムは指導員を対象に「普通救命講習1」を加え、一日コースとして充実を図った。松戸市小金消防署のご好意で、庁舎会議室で独自に「普通救命講習」を受講するには松戸市在住者を中心に20名程度の参加人員確保が要望されていた。そこで①消防署による普通救命講習、②関さんの森の観察、③リスクマネジメント研修の3本立てを企画した。人員確保はかねてより親交の深い里山整備活動に取り組んでいるグループに呼びかけ、普通救命講習は、指導員8名、里山仲間12名の合計20名の参加であった。厳しい中にも楽しい普通救命講習の後は、好天に恵まれ、関さんの森まで陽だまりハイキングを楽しみ、梅林の中で昼食をとった。関さんの森では、森の存続を訴えた道路問題、住宅地に囲まれた現況について、田中玉枝さんから説明を受け、森の散策を楽しんだ。その後、幸谷公民館に移動し、17名で第三部のリスクマネジメント研修会を行った。

<普通救命講習会の参加者感想>

- 1) メンバーは殆ど馴染みの者が多く、終始賑やかに楽しく受講が出来た。
- 2) 人工呼吸は自分の息が上がり、自分自身に酸素供給を望みたくなるほど体力が必要であった。見るのと実施は大違いで技術が必要と実感した。
- 3) 以前に受講した時より救命手順がシンプルになり、進化していると感じた。
- 4) 体験しておけば、いざと言うとき自信になる。でもAEDを借りて走れば設置場所のベテランと一緒に駆けつけやってくれることを期待したい。

<自然観察のリスクマネジメント研修会の参加者感想>

- 1) 日頃の里山保全活動内容とすり合わせて、理解するには講義速度が速かった。
- 2) 事故は自己責任と言い放ってきたが、自分達だけで活動する場合、一般の人を集める場合も、これまでと違う考え方で取り組む必要性を感じた。
- 3) 事例検証は楽しいが、普段気にしておらず、予知できずに落ち込んだ。
- 4) 大事な内容で具体的に説明を聞けば理解が出来たが、資料だけ読んでも理解できない。もっと時間をかけ、じっくり研修を受けたい。

<講師総括>

救命処置・リスクマネジメントは仲間を助ける行為であり、研修を通して自然保護の第一歩は人間尊重の精神と共感が持てた。

